

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2021年10月4日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年10月4日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	【2021年度業務品質監査における指摘について】 当社社員が2021年度業務品質監査において、保安規定の遵守に係る活動計画の中で、社内マニュアルに定められている項目が一部反映されていないことを指摘された。 今後、是正を行うとともに、再発防止対策を検討。	G II	9月27日
2	【2021年度業務品質監査における指摘について】 当社社員が2021年度業務品質監査において、マニュアルに定めた業務実施箇所と実際の業務実施箇所に相違があること、ならびに廃止したマニュアルに則り業務を実施したため業務が誤って実施されていたことを指摘された。 今後、是正を行うとともに、再発防止対策を検討。	G II	9月27日
3	【1・2号機排気筒サンプ排水ポンプの起動不可について】 1・2号機排気筒サンプ排水ポンプについて、当社社員が運転時間超過の警報が発生したことを確認したことから、当該ポンプの運転表示を確認したところ、運転中を示すランプが点灯していることを確認。 移送元であるサンプピットの水位および移送先である一時受けタンクの水位を監視用PCで確認したところ、いずれも水位に変化が無いことから、ポンプに不具合が発生していると想定し、ポンプの停止操作を実施。 現場を確認し、サンプピットからの漏えいが無いことを確認。 また、分電盤内の排水ポンプの電源が「切」になっていたため、本機器に異常が無いことを確認したうえで、電源を投入しポンプを起動、移送を実施した。 現場は、ポンプ本体の電源と制御電源が2系統に分かれており、ポンプ本体の電源は「切」であったが、制御電源が「入」であったため、当該ポンプの運転中を示すランプが点灯していたものと推定。 原因は、9月28日のピット水のサンプリングおよびラインフラッシング作業のため、排水ポンプの電源を「切」にしており、作業終了後の復旧を失念したものと推定。 作業手順書はあったものの、各手順のチェック欄がなく、確認者が不明確であったことから、手順書の見直しを早急に変更、および、再発防止対策を検討。	G II	10月1日